脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価･質問など	脱炭素社会を目指すという社会的な要請も強い中で、地球規模の取組において大変重要な部分を担っている。当該分野の研究者や産業界とも上手に協働している。	評価していただきありがとうございます。PJ 間の連携を含め、PG として良い成果があげられるように、引き続き努力していきます。
	PJ1 および PJ2 はこれまでの研究実績を踏まえて先進的な研究を進めて多数の興味深い成果を得ている。新規の研究課題である PJ3 は連携を主導して良い成果を上げつつある。	
	脱炭素にむけた大規模植林と飢餓リスクの関係の結果はインパクトが強い。様々な対策において、負の側面もある事を意識して取り組む必要性を社会に発信していると捉えればよいか。また、大規模植林の影響は振れ幅も大きく、何が問題となるのか、改善するための提言は検討しているのか。	気候目標実現に向けた対策が気候以外の観点で負の影響を持ち得ることを論じたうえで、その負の影響を回避するための追加的対策も併せて論じることを目指しています。植林の初期計画、保全管理の重要性や費用、森林による CO2 吸収の実効性等はモデル分析で扱えておらず、今後の課題です。
今後への期待など	気候変動問題に取り組む国際交渉の場でも、大規模植林と飢餓リスクの関係についての成果のように、問題提起から日本のプレゼンスを示せるようなイニシアティブにつなげられると良い。	学術に限らず、国際交渉の場を含めて成果の発信に努めていきます。緩和策が気候以外の開発目標に及ぼす影響については、特にトレードオフ関係の場合、市民や政策決定者への伝え方に工夫が必要と考えています。
	統合評価モデルは多くの研究者が利用しており、本 PG がその基盤となる。今後、さらに多くの研究者と連携をはかるべきである。	ご指摘ありがとうございます。所外との研究連携はこれまでも実施していますが、効果的な成果が得られるように更に取り組んでいきます。
	脱炭素の動きが早い中、ロシアによる軍事侵攻が世界のエネルギー逼迫を起こし先行きが見通せない状況である一方で、温暖化による被害は深刻化している。警鐘を鳴らす意味でも研究の進展を期待する。	様々な不確実性の評価や、間接的な影響も含めた可能性を提示することが、研究の役割と認識していますので、今後も様々な意思決定に資する情報をステークホルダーに対して発信していきます。